

並行在来線(JR線)の行方 意見交換会

日時：7月30日(金)

時間：18:00～

場所：町民センター 大ホール

北海道新幹線の令和12年度末（2030年度末）札幌開業に伴いJR北海道から経営分離される函館線（函館・小樽間287.74km）について、北海道と沿線の15市町で構成している北海道新幹線並行在来線対策協議会で、どのような方法での地域交通が良いのか平成24年から検討しています。

北海道新幹線並行在来線対策協議会の後志ブロックに加入しているニセコ町は、小樽市、黒松内町、蘭越町、倶知安町、共和町、仁木町、余市町、長万部町と数回にわたり意見交換を行ってきました。

今回は、町民のみなさまの様々な立場から並行在来線についてのご意見をお聞かせください。

公共交通について、一緒に考えていきましょう。

○ 北海道新幹線の札幌開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線（函館・小樽間）沿線の地域交通のあり方について検討するため、道と沿線市町で構成するブロック会議を渡島地域と後志地域で開催。

1 開催の概要

区分		渡島ブロック	後志ブロック
日時		令和3年4月26日（月） 14時～	令和3年4月21日（水） 15時～
場所		函館市亀田交流プラザ 1階講堂	後志総合振興局 2階講堂
出席者	道	交通企画監、渡島総合振興局長	交通企画監、後志総合振興局長
	沿線市町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 函館市副市長 ・ 七飯町長 ・ 森町長 ・ 長万部町副町長 ・ 北斗市副市長 ・ 鹿部町長 ・ 八雲町長 〔7市町〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小樽市長 ・ 蘭越町長 ・ 倶知安町長 ・ 仁木町長 ・ 長万部町副町長 ・ 黒松内町副町長 ・ ニセコ町長 ・ 共和町長 ・ 余市町長 〔9市町〕

2 会議の主な内容

(1) 函館線(函館・小樽間)旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査の結果について

経営分離後における地域交通の確保方策を検討する基礎資料とするため、一定の前提条件を設定して行った第三セクター鉄道やバス運行に係る需要予測調査等の結果を報告。

<収支予測調査の結果>

(単位：億円)

地域交通の確保方策	区間	初期投資	単年度収支		30年累計	留意事項
			2030年度	2040年度		
第三セクター鉄道	長万部・小樽間	191.2	▲23.7	▲24.3	▲926.9	
	函館・長万部間	317.3	▲18.8 (▲59.2)	▲20.3 (▲60.7)	▲944.2 (▲2154.0)	
バス運行	長万部・小樽間	18.3	▲2.0	▲2.3	▲96.0	国・道からの補助制度があるが、考慮していない数字。
	函館・長万部間	36.6	▲2.5	▲2.0	▲130.4	
第三セクター鉄道 ＋ バス運行	長万部・小樽間 (鉄道：小樽・余市間) (バス：余市・長万部間)	64.5	▲7.4	▲8.0	▲311.7	国・道からの補助制度があるが、考慮していない数字。 (バス運行)
	函館・長万部間 (鉄道：函館・新函館北斗間) (バス：新函館北斗・長万部間)	160.9	▲11.5 (▲19.4)	▲12.8 (▲20.6)	▲565.4 (▲800.3)	

※収支の()は線路使用料を除いた数字。

※四捨五入の関係で、計算が一致しない場合がある。

(2) 沿線市町からの主な意見

後志ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期に方向性を決定するためには地域住民の理解が必要であり、ブロック会議などを定期的を開催し、議論の状況を積極的に公開していただきたい。 ・ 余市・小樽間は1日2,000人が利用している。鉄道維持の可能性とともに、BRTや接続バスなど、バス運転手不足の中で、現実的にバスで輸送需要に対応できる手法を探してほしい。
渡島ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の調査結果は、三セク鉄道の初期投資に大規模補修の経費が盛り込まれているため、実際の三セク鉄道の経営に沿った記載にする必要があるのではないか。 ・ より地域の実情に合うよう調査結果の精査を行うとともに、将来の貨物調整金の動向も含め、沿線自治体の負担がどの程度になるのか、ブロック会議や幹事会などで議論を進めていただきたい。

3 今後の協議の進め方

後志ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿線自治体と議論を重ね、<u>今年の9月を目途に地域交通の確保方策の方向性（①第三セクター鉄道、②バス運行、③三セク鉄道＋バス運行）を確認し、令和4年の早い時期に地域交通のあり方を決定することで合意。</u> ・ 利用者の多い余市・小樽間については、道と関係市町や交通事業者などの関係者で個別協議を実施。
渡島ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者と協議を行いながら調査結果を精査するとともに、地域交通の確保方策の方向性（①第三セクター鉄道、②バス運行、③三セク鉄道＋バス運行）について、将来における沿線自治体の負担のあり方も含め、様々な角度から検討を進めていくことで合意。

- 北海道新幹線の札幌開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線（函館・小樽間）沿線の地域交通のあり方について、地域の実情に沿った具体的な検討を行うため、渡島地域と後志地域において道と沿線市町の課長級で構成する幹事会を開催。

1 開催の概要

区分	渡島ブロック	後志ブロック
日時	令和3年5月27日（木）10:00～	令和3年5月27日（木）15:30～
場所	オンライン会議	オンライン会議
出席者	道、沿線自治体〔7市町〕	道、沿線自治体〔9市町〕

2 協議・検討事項

第8回ブロック会議での沿線自治体からの意見や提案された地域課題について、協議・検討を行った。

(1) 初期投資

大規模補修	・第三セクター鉄道の初期投資に大規模補修を含めた考え方について
車両の更新費用	・車両の更新費用を見込んだ収支について
JR譲渡資産	・第三セクター鉄道の運行に必要な譲渡資産の精査について

(2) 単年度収支

将来需要予測	・新幹線札幌開業に伴う新規誘発効果の推計について ・インバウンド等の観光客の推計について ・函館・新函館北斗間の需要増加の推計について
減価償却	・第三セクター鉄道における減価償却を見込んだ収支について
補助制度	・並行在来線や生活交通路線(バス)に対する国の支援制度について ・バス補助推計の前提となる代替バスルートの設定について

3 意見交換の状況

<p>第三セクター鉄道</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域交通の確保方策の結論を早期に出すため、JR譲渡資産の精査を進めてほしい。【渡島、後志】 ・ 大規模補修の取扱いは、地方公共団体が補助を行う場合、地方財政措置が有利となるよう検討すること。【渡島】 ・ 第三セクター鉄道の収支の検討と貨物運行の議論は切り離せないため、貨物調整金の動向を踏まえた議論を進める必要がある。【渡島】
<p>バス運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス路線の設定にあたっては、利便性の確保とともに補助制度の対象となるよう検討すること。【渡島、後志】
<p>共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域交通の確保方策の方向性の決定に向けて、各自治体の負担額がどの程度になるのか、示してほしい。【渡島、後志】 ・ 住民に対し丁寧な説明が行えるよう、議論の経過や説明資料などについて、HPなどでの情報提供を積極的に進めていただきたい。【後志】 ・ 函館・新函館北斗間は新幹線開業後に多くの利用が見込まれるため、交通モードの決定に向けて、様々な角度から検討を進めていただきたい。【渡島】 ・ 町としての方針決定に向けて、鉄道利用者の実態把握のため、町内の駅で乗降調査を実施している。【渡島、後志】 ・ 今後の協議においては、今年度、後志地域で策定予定の地域公共交通計画とも連携しながら、進めていただきたい。【後志】

4 今後の進め方

今回の幹事会における協議・検討事項や意見交換で提案された事項については、引き続き、議論を深めていく。

また、次の事項については、次回の幹事会において、具体的な協議・検討を行うこととしている。

○地域の実情に応じたバスルートの設定

○余市・小樽間は、輸送人員が多いことを踏まえ、鉄路維持の可能性及びBRTや接続バスなど、現実的にバスで輸送需要に対応できる手法など

- 北海道新幹線の札幌開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線（函館・小樽間）沿線の地域交通のあり方について、地域の実情に沿った具体的な検討を行うため、後志地域において道と沿線市町の課長級で構成する幹事会を開催。

1 開催の概要

区分	後志ブロック幹事会	個別協議（余市・小樽間）
日時	令和3年6月25日（金）16:00～	令和3年6月24日（木）15:00～
場所	オンライン会議	オンライン会議
出席者	道、沿線自治体〔9市町〕	道、小樽市、余市町

2 協議・検討事項

（1）将来需要予測・収支予測等調査結果の精査

前回の幹事会での検討事項について、引き続き協議

- ・新幹線札幌開業に伴う新規誘発効果の推計について
- ・第三セクター鉄道の運行に必要な譲渡資産の精査について など

（２）長万部・小樽間におけるバスルート検討の方向性

- ・長万部・小樽間のバスルートの検討は、地域の実情を踏まえ、次の4区間とすること
〔 長万部・黒松内間 、 黒松内・倶知安間 、 倶知安・余市間 、 余市・小樽間 〕
- ・通勤・通学など多客時間帯における運行方法を検討すること
- ・地域の課題を踏まえた、以下のバスルート等を検討すること
 - ①既存のバス路線がない区間における新規路線開設
 - ②国道から離れている駅における利用状況に応じた運行方法
 - ③高規格道路を活用するなど、速達性を考慮したバスルート

（３）余市・小樽間の個別協議

第三セクター鉄道による運行の検討	・コスト削減が可能となる運行形態などについて検討 〔 信号設備の簡素化、予備車両数の見直し、大規模補修費の精査 小樽駅の要員数見直し など 〕
BRTの検討	・余市・小樽間でのBRT導入に向けた課題等について検討

3 意見交換の状況

(1) 長万部・小樽間におけるバスルートの検討

長万部・黒松内間	・黒松内町から長万部高校への通学が可能となる新たなバスダイヤの設定が必要。
黒松内・倶知安間	・現状、黒松内・蘭越間は路線バスがなく、また、蘭越・ニセコ間は1日2往復であり、鉄道の利用状況を踏まえたバス路線を検討。 ・黒松内町から蘭越高校、黒松内町・蘭越町・ニセコ町から倶知安高校への通学が可能となる新たなバスルートを検討。
倶知安・余市間	・銀山から余市までデマンドバスを運行しているが、バス転換した場合、利用状況を踏まえた運行方法の検討が必要。 ・仁木町から余市・小樽方面への朝の通勤・通学時間帯に対応した新たなバスダイヤの設定が必要。
余市・小樽間	・利用客が集中する朝の通勤・通学時間帯への対応が必要。 ・札幌への通勤・通学の対応として、速達性も重要。 ・塩谷駅は、国道沿いのバス停まで距離があるので、塩谷ICを活用した新たなバスルートの設定を検討。

(2) 余市・小樽間の個別協議

第三セクター鉄道	・鉄道に詳しい専門家からの意見を求める必要。
BRTの検討	・通勤、通学時間帯に利用客が集中することや、札幌までの所要時間の短縮に対応できる手法の検討が必要。

4 今後の進め方

これまでの議論を踏まえ、幹事会において、以下の事項の検討を進めていく。

- 新幹線札幌開業に伴う新規誘発効果の推計
- 第三セクター鉄道の運行に必要な譲渡資産等の精査
- 地域の実情に応じた具体的なバスルートの設定 など